

寺宵

二十三回

terayoi

寺宵

二十三回

演奏 新潟ARS NOVA

(室内オーケストラ)

武藤 祥圃(筝・三味線)
山下 尚子(フルーナ・司会)

瑞光寺 桑原弘光住職トーク

会場 瑞光寺

新潟市中央区西堀通3番町7-97

西堀寺町で開催する
カジュアルなクラシックコンサート。

歴史を重ねたお寺の空間と、
新潟屈指の演奏家による

音楽を、どうぞお気軽に
お楽しみください。

主催／新潟寺町 寺宵10周年実行委員会
協力／にいがた音楽の森、伊藤裕一(照明)

チケット電話ご予約承ります(前売価格にて当日清算)
025-260-2603(小西) / 090-7564-9666(上田)

秋光

Zuikouji

13時OPEN!

traveling-cafe
café-POT

境内でカフェをオープンします。
カフェだけのご利用もできます!

寺宵十周年記念演奏会

水と土の
芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival
2018

beyond
2020

寺宵十周年記念演奏会

水
と
土
の
芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival
2018

beyond
2020

西堀・寺町のお寺の空間で、音楽やお茶を楽しみながらゆったり過ごす。

そんな思いを込めた「寺宵」は2008年11月にスタートし、

今年で満10年を向かえました。

西堀通沿いに現在のようななかたちでお寺が並ぶようになったのは江戸時代のこと。

堀は道路へ、家並はビルへとまちの姿は変化しましたが、

西堀寺町に宿された往時の記憶は、いまも同じ場所で受け継がれています。

「寺宵」が、そうした新潟のまちについて、ひととき思いを馳せる機会となれれば幸いです。

10周年記念となる今回は、室内オーケストラの特別プログラムでお送りします。

堅苦しさのない、気軽でカジュアルな会です。ぜひお気軽におこしください。

プログラム

トリッチ・トラッチ・ポルカ／シュトラウスⅡ 作曲

カノン／パッヘルベル 作曲

交響曲「新世界」より 第2楽章／ドヴォルザーク 作曲

オペレッタ「こうもり」より「アデーレのアリア」／シュトラウスⅡ 作曲

剣の舞／ハチャトリアン 作曲

オペラ「トスカ」より「歌に生き 恋に生き」／プッチーニ 作曲

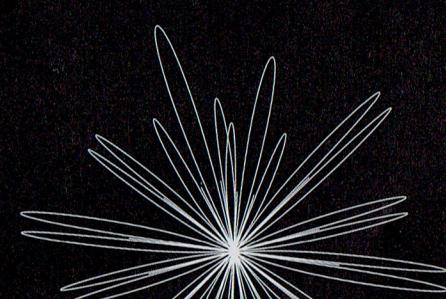
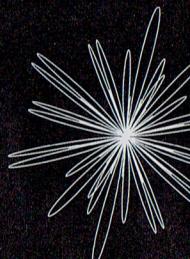
展覧会の絵「プロローグ」「市場」「古城」／ムソルグ斯基 作曲

春の海／宮城道雄 作曲

越後獅子／九代目杵屋六左衛門 作曲

威風堂々／エルガー 作曲

企画・構成・編曲／小西奈雅子



新潟ARS NOVA

「新潟ARS NOVA(アルス・ノーヴァ)」は、14世紀にヨーロッパで起こった「ARS NOVA」*のように、生き生きとした新しい音楽を新潟から発信したいという願いを込めて名付けられました。

2006年4月に「アンサンブル・ルゴーサ」として発足。翌年「新潟ARS NOVA」と名前を変え、新潟から新しい風を起こそうと、新潟出身、在住の音楽家で再結成しました。これまでに、イ・ムジチ合奏団の元コンサートマスターであるフェデリコ・アゴスティーニ氏との共演をはじめとした室内楽コンサートの自主公演のほか、新潟市東区主催のバレンタインふれあいコンサートなど数多くのコンサートに出演してきました。県内の小中学校に音楽を届ける「東北電力スクールコンサート」は、発足以来57公演(参加79校)を数え、身近に音楽を体験する喜びを様々な形で提供する活動は各地で好評を得ています。

メンバーはそれぞれソリストや指導者として活発な音楽活動を行い、新潟の核をなす音楽家として注目されています。現在16名の演奏家のほか、編曲スタッフもついてバックアップをしています。今回はソプラノの山下尚子さん、箏の武藤祥圃さんを迎えて、トークを交えながらの特別プログラムをお送りします。

*ARS NOVA:14世紀のフランスで栄えた音楽様式。新しいリズムの分割法と記譜法を論じた音楽理論書『Ars nova(新技法)』が名前の由来。



新潟ARS NOVA

新潟ARS NOVAメンバー

ヴァイオリン	廣川 抄子・庄司 愛・藤田 旬葉
	佐々木 友子・原山 美香
ヴィオラ	加藤 礼子・井口 歩
チェロ	渋谷 陽子
コントラバス	星野 勝彦
フルート	市橋 靖子
オーボエ	金子 いつか
クラリネット	佐藤 日菜子
ファゴット	小武内 茜
ホルン	宮野 大輔
トランペット	藤井 裕子
打楽器	本間 美恵子

共演

箏・三味線	武藤 祥圃
ソプラノ・司会	山下 尚子



山下尚子



武藤祥圃

新潟市中央区の西堀通には、通りに沿うように数多くのお寺が整然と並んでいます。昔、ここは新潟町と寄居村の境の場所で、明暦元年（一六五五）のころには、このようなかたちでお寺が並ぶようになつてました。江戸時代から明治・大正・昭和、そして平成と、長い長い年月、西堀の寺町はまちの変化を見守り続けてきました。西堀を歩けば、新潟のまちの歴史と地形の一端にふれることができます。



金青山瑞光寺

今回の会場となる「瑞光寺」は、開基より五百年以上という長い歴史を持つ重厚なお寺です。寺宝の木造菩薩立像は「不転觀音（ころばずのかんのん）」と呼ばれ、新潟県指定文化財となっています。

境内には新潟市古町の出身である會津八一や、俳人・浜口今夜のお墓、そして高浜虚子が今夜を悼んだ追悼句碑などがあり、新潟ゆかりの文人を偲ばせます。

